

沖縄県内の2次交通としての自動車活用と現状

氏名 水沼駿佑

要旨本文

沖縄県は鉄道を保有しておらず、自動車依存型社会が形成されており、沖縄県の観光客の移動手段の多くはレンタカーに依存している。しかし、コロナ禍での観光客減少により、レンタカー台数が大きく減少し、観光客の間でレンタカーを取り合う状況が起きている。

本研究では、このような沖縄のレンタカー不足問題に着目し、沖縄におけるレンタカー不足が続く中、代替の移動手段として新たなモビリティが普及しているかを問いとした。この問いに対して、沖縄観光ではレンタカー以外の代替手段がなく、レンタカー依存の現状は変わらず、現状のレンタカー不足を打開するために新しいモデルのモビリティが必要になるという仮説を立てた。

本文では、レンタカー不足を迎えた沖縄で公共交通機関の使用が増えた事を明らかにするために、1. 観光地の人気度とコロナ前・後の観光客の推移の関係、2. 一日の公共交通機関の運行本数とコロナ前・後の観光客数の推移の関係、3. 那覇からの所要時間とコロナ前・後の観光客数の推移の関係、4. 各観光地のレンタカーと自家用車の比率の計4つの調査を行った。

結果として、観光客が利用するモビリティに変化は見られずレンタカー依存の観光は依然として続いていることがわかり、そして、レンタカーの問題点と沖縄のレンタカーの問題点について指摘を行い、この現状を打開する代替手段となるライドシェアの提案を行った。